

みずほマーケット・トピック(2014 年 6 月 27 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

3. 本日のトピック:「動かない相場」は企業の想定通り? ~プラザ合意以降で最小の月間レンジに~

※今週より「みずほマーケット・トピック(週末版)」の最後に月次カレンダーを付けております。

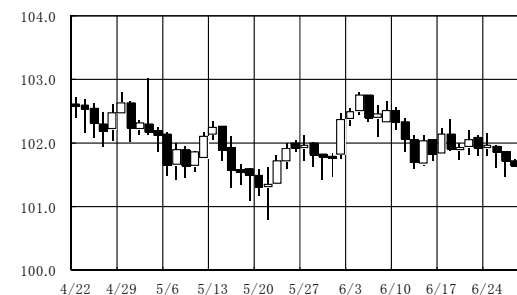
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は下落する展開。週初 23 日に 102 円台前半でオープンしたドル/円は、期末に絡む輸出企業の円買い需要と、米 5 月中古住宅販売の良好な結果を好感したドル買いに 102 円挟みの揉み合い推移。24 日は、安倍首相の新たな成長戦略が発表されるも市場の値動きは限定的となり、海外時間に発表された米 5 月新築住宅販売の大幅な増加を好感すると、ドル/円は一時週高値となる 102.17 円まで買い進められた。だがその後はイラク情勢の緊迫化を背景に円買い戻しが優勢となり 102 円割れまで下落。さらに 25 日には、米 1~3 月期 GDP(3 次速報値)の大幅下方修正や米 5 月耐久財受注の冴えない結果も相俟って、101 円台後半まで続落した。26 日には、米 5 月個人消費支出の市場予想を下回る結果や月末の米債需要から米金利が低下すると、ドル/円は一時週安値となる 101.48 円をつけた。その後は小幅に反発し、本日にかけては 101 円台後半で動意に乏しい推移が続いている。
- ・今週のユーロ/ドル相場は上値の重い展開。週初 23 日に 1.35 台後半でオープンしたユーロ/ドルはユーロ圏各国 PMI の市場予想を下回る結果や、それを嫌気した欧州株価の軟調な動きに一時週安値となる 1.3574 をつけたが、その後はショートカバーも入って下げ渋る展開。24 日は、米経済指標の良好な結果を好感したドル買いに一旦弱含むも、イラクやウクライナ情勢の緊迫化を背景にリスクオフの円買い戻しが強まりドル/円が下落すると、1.36 台前半でレンジ狭い取引に。25 日は米 1~3 月期 GDP の大幅下方修正を受けたドル売りに、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.3651 まで上昇した。26 日は ECB 関係筋のコメントから追加緩和への思惑が浮上する中、ユーロ/円の下落に伴いユーロ/ドルも一時週安値近辺まで下落したが、本日にかけてはやや値を戻し、ユーロ/ドルは 1.36 台前半で底堅い推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週			
		6/20(Fri)	6/23(Mon)	6/24(Tue)	6/25(Wed)	6/26(Thu)
ドル/円	東京9:00	101.92	102.09	101.88	101.92	101.83
	High	102.20	102.14	102.17	101.97	101.87
	Low	101.82	101.82	101.81	101.62	101.48
	NY 17:00	102.05	101.93	101.97	101.86	101.72
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3610	1.3592	1.3600	1.3606	1.3628
	High	1.3634	1.3614	1.3628	1.3651	1.3642
	Low	1.3565	1.3574	1.3583	1.3601	1.3576
	NY 17:00	1.3601	1.3604	1.3606	1.3628	1.3613
ユーロ/円	東京9:00	138.66	138.78	138.54	138.68	138.76
	High	138.89	138.80	138.93	138.90	138.88
	Low	138.55	138.28	138.46	138.57	137.93
	NY 17:00	138.83	138.68	138.75	138.85	138.43
日経平均株価		15,349.42	15,369.28	15,376.24	15,266.61	15,308.49
TOPIX		1,268.92	1,267.48	1,268.50	1,260.83	1,263.43
NYダウ工業株30種平均		16,947.08	16,937.26	16,818.13	16,867.51	16,846.13
NASDAQ		4,368.04	4,368.68	4,350.36	4,379.76	4,379.05
日本10年債		0.59%	0.58%	0.58%	0.57%	0.57%
米国10年債		2.61%	2.63%	2.58%	2.56%	2.53%
原油価格(WTI)		106.83	106.17	106.03	106.50	105.84
金(NY)		1,316.60	1,318.40	1,321.30	1,322.60	1,317.00

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週にかけて、米国では7月3日(木)発表の6月雇用統計が最大の注目となる。7月4日(金)は独立記念日であることから、前日の発表となるため注意を要する。週次で発表されている新規失業保険申請件数からは雇用情勢の改善が見受けられる。また、6月ニューヨーク連銀製造業景気指数(NY 指数)の雇用項目は低下する一方、6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数(PHL 指数)の雇用項目は上昇しており、まちまちな結果となっているが、総合的に判断すれば年初からの平均である20万人近い雇用増となりそうである(市場予想の中心:非農業部門雇用者数 前月比+21.0万人、失業率 6.3%)。そのほか、1日(火)には6月ISM製造業景気指数の発表が予定されている。既に発表されている6月NY指数は+19.3と前月の+19.0から小幅に上昇したほか、6月PHL指数も+17.8と前月の+15.4から市場予想に反して上昇する結果となった。さらに、6月Markit製造業PMI速報値も前月から上昇しており、現状、市場では55.5%と前月から横ばいが見込まれているものの、リスクはアップサイドをみておきたい。さらに、翌2日(水)には6月ADP雇用統計の発表も予定されており、ISMと併せて6月雇用統計を占う上でも注目したい。
- 欧州では、3日(木)にECB理事会が開催される。6月理事会では、主要リファイナンス金利を0.25%から0.15%、預金ファシリティ金利をそれぞれ0.0%から▲0.10%へ引き下げることと決定し、主要中銀として初めてマイナス金利の導入に踏み切った。そのほか、用途を絞った長期流動性供給(TLTRO)、証券市場プログラム(SMP)の非不始化、資産担保証券(ABS)の買い切りプログラムの検討など、包括的な金融緩和策を発表した。ドラギECB総裁は理事会後の会見で、これらの措置のインパクトを確認するのに「恐らく3、4四半期程度の時間がかかる」としており、直ぐに追加の措置に動くとは考えにくい。だが、一方で「これで終わりではない」と述べおり、将来の量的緩和(QE)の可能性などを探って市場との神経戦が続く見通しである。
- 本邦では、1日(火)に日銀短観(6月調査)が公表される。今回の調査期間では、4月に実施された消費税引き上げ前の駆け込み需要の反動減により企業の業況は悪化しているものの、反動減の規模は概ね想定範囲内に留まっている。輸出環境の大きな改善が確認出来ない状況で企業マインドの好転は期待しかねるものの、消費増税の影響も想定内の動きとなっていることから、大企業製造業の業況判断DIは17から15へ、大企業非製造業の業況判断DIは24から19へと、それぞれ小幅な低下に留まろう。そのほか、6月30日(月)には5月鉱工業生産(速報)の発表などが予定されている。

	本 邦	海 外
6月27日(金)	-----	・米6月ミシガン大学消費者マインド指数(確報)
30日(月)	・5月鉱工業生産(速報) ・5月新設住宅着工	・米6月シカゴPMI
7月1日(火)	・日銀短観(6月調査) ・6月自動車販売台数	・米6月ISM製造業景気指数 ・米5月建設支出
2日(水)	・6月マネタリーベース	・米5月製造業新規受注 ・米6月ADP雇用統計
3日(木)	-----	・米6月雇用統計 ・米5月貿易収支 ・米6月ISM非製造業景気指数 ・ECB理事会(フランクフルト)
4日(金)	-----	米休場(独立記念日)

【当面の主要行事日程(2014年7月～)】

日銀金融政策決定会合(7月14～15日、8月7～8日、9月3～4日)
米FOMC(7月29～30日、9月16～17日、10月28～29日)
欧州中銀理事会(8月7日、9月4日、10月2日)

3. 「動かない相場」は企業の想定通り？～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～

200 日移動平均線を下抜け

昨日の為替相場はドル相場が軟化する展開。米 5 月個人消費支出(PCE)が前月比 0.2%増と市場予想の同 0.4%増の半分程度の伸びに止まったことなどが嫌気され、米金利が低下し、これに応じてドルを手放す動きが強まった。こうした中、ドルは対円で一時 101.48 円と月安値をつけ、対ユーロでも 1.3642 をつけている。なお、一部の市場参加者が重視する 200 日移動平均線を下抜けしていることから、102 円台へのトライ、そしてその後の定着に関してはさらにハードルが高くなってしまった印象はある。また、イラク情勢を受けたリスク回避ムードの高まりも円相場の騰勢を後押しした模様である。2014 年上期のドル/円相場が当初の予想ほど上値を追えなかった背景の 1 つとしてウクライナ情勢の緊迫化がありそうだが、下期はイラク情勢の緊迫化が 1 つの重石として作用してくる可能性を注視したい。また、そのような状況では FRB のタカ派色も強まらないだろう。

1 円台の月次値幅はプラザ合意以降で最小

昨日は久しぶりに動意ついたとは言え、「方向感が出た」とまで言えるものではない。昨日の本欄でも議論したように今年のレンジは僅か 4.69 円であり、残すところ 2 営業日となった 6 月に限って言えば 1.32 円(102.80 円-101.48 円)である。なお、この値幅は 1975 年 8 月(0.53 円:298.15 円-297.62 円、※ブルームバーグ参照値)以来の小ささであり、プラザ合意以降では最小という表現もできる。右図に示されるように、ドル/円の月次値幅の歴史の中でも 1 円台というのは極めて小さい。円相場のボラティリティが低く、円キャリー取引が隆盛を極めていた 2005～06 年の 2 年間について平均を取って見ても、4 円以上はあったことを思えば、6 月の静かな相場つきが如何に異様なものであったかが分かる。

ドル/円の月次値幅の歴史

過去20年	5.17
過去10年	4.45
過去5年	3.87
過去1年	3.08
2014年の6か月平均	2.44
2014年6月(～27日)	1.32

(資料) Bloomberg。14年6月は「102.80-101.48=1.32」との前提。

企業にとっては想定通り？

但し、昨日の本欄でも言及したが、こうした相場環境はボラティリティを収益減とする市場参加者にとっては非常に酷だが、企業にとっては望ましいと受け止める向きも多いかもしれない。例えば、今年 2 月に公表された内閣府「2013 年度企業行動に関するアンケート調査」によれば 2014 年の輸出企業の採算レートは「92.2 円」であり、今の水準は大きな為替差益をもたらす筋合いにある。また、今年 3 月短観では 2014 年度の想定為替レートが「99.6 円」であり、現状は想定通りないし若干の為替差益が期待できる。さらに言えば、「2013 年度企業行動に関するアンケート調査」では 1 年後(2015 年 1 月頃)の予想レートもヒアリングしており、これが「105.7 円」であった。「企業の期待値」からすれば現水準に物足りなさを覚える向きもあるかもしれないが、同調査の実施時期が 103～105 円を記録した今年 1 月であったことには留意したい。当時のドル/円相場の水準からすれば、むしろ多くの企業が年初段階で「今後 1 年でドル/円相場は大して動かない」と思っていた可能性が見受けられ、過去半年の相場展開はその通りになったということではないだろうか。

2014年におけるドル/円の主な節目

日本企業が抱く14年2月時点の採算レート	92.20
購買力平価 (企業物価、73年基準、14年4月)	98.56
想定為替レート (短観、14年3月調査、通年)	99.58
年初来安値	100.76
14年年初来の平均レート	102.50
年初来高値	105.45
日本企業が抱く15年1月時点の予想レート	105.70

(資料) 内閣府、Bloomberg、Datastream

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

2014年6月の予定

日	月	火	水	木	金	土
6/1	2 5月自動車販売台数 1～3月期法人企業統計 米5月ISM製造業 景気指数 米4月建設支出	3 5月マネタリーベース 米4月製造業新規受注	4 米5月ADP雇用統計 米4月貿易収支 米1～3月期労働生産性 (確報) 米5月ISM非製造業 景気指数 米地区連銀経済報告 (米ベージュブック)	5 ECB理事会 (フランクフルト)	6 4月景気動向指数(速報) 米5月雇用統計 米4月消費者信用残高	7
8	9 4月国際収支 5月企業倒産件数 1～3月期GDP(2次速報) 5月貸出・預金動向 5月景気ウォッチャー調査	10 5月マネーストック 4月第三次産業活動指数 米4月卸売売上高	11 5月企業物価 4～6月期法人企業 景気予測調査 米5月財政収支	12 日銀金融政策決定会合 (～13日) 4月機械受注 米5月小売売上高 米4月企業在庫	13 4月鉱工業生産(確報) 米5月生産者物価 米6月ミシガン大学消費 者マインド指数(速報)	14
15	16 金融経済月報 米6月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米4月TICレポート (対内対外証券投資) 米5月鉱工業生産	17 米FOMC(～18日) 米5月消費者物価 米5月住宅着工	18 5月貿易統計 日銀金融政策 決定会合議事要旨 米1～3月期経常収支	19 4月景気動向指数(確報) 米6月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数 米5月景気先行指数 ユーロ圏財務相会合 (ルクセンブルク)	20 月例経済報告 EU経済・財務相理事会 (ルクセンブルク)	21
22	23 米5月中古住宅販売	24 米4月S&P/ケース・ シラー住宅価格 米6月消費者信頼感指数 米5月新築住宅販売	25 5月企業向けサービス 価格 米5月耐久財受注 米1～3月期GDP (最終推定値)	26 米5月個人所得・消費 EU首脳会議 (～27日、ブリュッセル)	27 5月家計調査 5月労働力調査 6月東京都区部・ 5月全国消費者物価 5月商業販売統計 米6月ミシガン大学消費 者マインド指数(確報)	28
29	30 5月鉱工業生産(速報) 5月新設住宅着工 米6月シカゴPMI					

(注) 2014年6月27日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

2014年7月の予定

日	月	火	水	木	金	土
6/29	6/30 5月鉱工業生産(速報) 5月新設住宅着工 米6月シカゴPMI	7/1 日銀短観(6月調査) 6月自動車販売台数 米6月ISM製造業 景気指数 米5月建設支出	2 6月マネタリーベース 米5月製造業新規受注 米6月ADP雇用統計	3 米6月雇用統計 米5月貿易収支 米6月ISM非製造業 景気指数 ECB理事会 (フランクフルト)	4 米独立記念日	5
6	7 5月景気動向指数(速報)	8 5月国際収支 6月貸出・預金動向 6月景気ウォッチャー調査 6月企業倒産件数 米5月消費者信用残高	9 6月マネースtock FOMC議事要旨	10 6月企業物価 5月第三次産業活動指数 5月機械受注 米5月卸売売上高	11 米6月財政収支	12
13	14 日銀金融政策決定会合 ・展望レポート(～15日) 5月鉱工業生産(確報)	15 米6月小売売上高 米7月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米5月企業在庫	16 金融経済月報 米6月生産者物価 米6月鉱工業生産 米5月TICレポート (対内対外証券投資) 米地区連銀経済報 (米ページブック)	17 米6月住宅着工 米7月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数	18 日銀金融政策 決定会合議事要旨 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(速報) 米6月景気先行指数	19
20	21 海の日	22 4月景気動向指数(確報) 米6月消費者物価 米6月中古住宅販売	23	24 6月貿易統計 米6月新築住宅販売	25 7月東京都区部/ 6月全国消費者物価 6月企業向けサービス 価格 米6月耐久財受注	26
27	28	29 6月家計調査 6月労働力調査 6月商業販売統計 米7月消費者信頼感指数 米5月S&P/ケース・ シラー住宅価格	30 6月鉱工業生産(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月期GDP (事前推定値) 米FOMC(～30日)	31 6月新設住宅着工 米4～6月期雇用コスト 米7月シカゴPMI	8/1 7月自動車販売台数 米7月雇用統計 米6月建設支出 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(確報) 米6月個人所得・消費 米7月ISM製造業 景気指数	8/2

(注) 2014年6月27日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/ecsgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡？～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時？～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空爆示唆から思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か？
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア？
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBにまつわる3つの「分かれ難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「魅せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか？～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらす～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か？～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イエレンFRB議長議会証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか？
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ)。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～
2014年4月16日	米為替政策報告書～滲み出るドイツ及びユーロ圏への不満～
2014年4月15日	説得力に欠けるユーロ高牽制～通貨政策への傾斜を考える～
2014年4月14日	アベノミクスを巡る国内外の温度差～豪州出張を終えて～
2014年4月11日	週末版
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト？～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当に年内までか？～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに躍いた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か？～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株市相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見通し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10～20%～
2014年1月21日	BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について
2014年1月20日	最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について
2014年1月17日	週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)
2014年1月16日	燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態
2014年1月15日	円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～
2014年1月14日	潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～
2014年1月9日	週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に慣れ過ぎているECB。政策変更のトリガーが視界不良に～)
2014年1月8日	ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～
2014年1月7日	2014年の円相場の見通し、論点おさらい
2013年12月27日	週末版
2013年12月26日	2013年を終えて～ブラザ合意以来の動きに挑む2014年～